



# The Asia Foundation

**カナダの多文化主義 - ドイツのモデルになるか**

ライナー・ゲイスラー (Rainer Geissler)

国際シンポジウム

外国人労働者受け入れと日本 ~ ドイツ、アメリカ、フランスの経験に学ぶ ~

**【共催】**アジア財団(The Asia Foundation) フリードリヒ・エーベルト財団 (Friedrich Ebert Stiftung)

**【日時】**2003年 11月 12日水曜日 午後 1:00 時 ~ 5:00 時

**【場所】**OAG ドイツ東洋文化研究協会

アジア財団日本事務所

〒106-0047 東京都港区南麻布 5- 2- 32興和広尾ビル 2階

Tel: (81) 3-3441-8291 Fax: (81) 3-3442-3320 <http://www.tafjapan.org>

1971年にカナダは世界初の多文化国家になったことを公式に宣言した。30年以上前からカナダでは様々な民族グループが多文化主義のイデオロギーと政治の下で共生してきた。

「違いとともに生きる」 - 「多様性と付き合う」は多文化主義の主要原理だ。それは7つの要素から成っている。

1. 移住とその影響、民族文化の違いや多様性に正面から取り組む
2. 少数民族男女が違う文化をもつことを保障する権利
3. すべての文化は同価値 相互尊重の原則
4. 「多文化主義」(多文化主義の社会心理学): 自分の文化的背景を安心して担える者だけが他者に対してオープンで寛容になれる
5. 「多様性の中の単体」の原理: 民族文化の多様性は無制限ではない; 違いが、コアになっている制度的価値・法律・人権・個人の権利とぶつかる時に、違うことを保障する権利、相互尊重
6. 社会的包摂; ;すべての民族グループに機会均等と経済・社会・文化・政治生活への同等参加
7. 積極的政治手法: 多文化主義は放っておいては進展しない。政治による後押しが必要だ

これらの原則はカナダ憲法やその他の法律、特に多文化主義法や雇用同権法により保護されている。

多文化主義の中身や努力について多くの議論が行われてきたし、多文化主義は右派からそして左派からも非難を受けてきたが、政治家はほとんど全員、そしてカナダ人の大多数は多文化主義に賛成だ。多文化主義はカナダ人のアイデンティティーの本質的な部分だ。

カナダ人の多文化主義は特殊な歴史的・社会的・文化的・政治的背景のなかで生まれ、他の国では見られないものである。ドイツや日本にもない。ドイツが単一文化の伝統に根差した近代的移民国家であるのに対してカナダは古典的移民国家だ。日本でも移民と少数民族の統合について議論が始まったばかりだ。このことが、カナダの多文化主義を簡単に他の社会に輸出すればヒットするだろうと考えることが幻想でしかない理由だ。にもかかわらず、カナダの社会実験の経験は、移民を経済・人口の観点から必要としている他の国々の参考にはなるだろう。